現行水準の確保訴える

東京都連で都福祉保健局交渉

10月7日、都庁第2庁舎で全建総連東京都連（以下、都連）は2021年度建設国保への都費補助を求める交渉を行ない、都連からは46人（東京土建からは21人）が参加し、東京都は伊藤国民健康保険課長他2人が応対しました。

伊藤課長（左）に要請書を渡す菅原委員長と都連役員

冒頭、菅原都連委員長は「コロナ禍で建設労働者の収入は減り生活は厳しい。建設国保は命綱。引き続き都費補助をお願いしたい」とあいさつしました。要請書と都議会議員の賛同署名を都連役員が伊藤課長に手渡した後、田村都連社保対部長（東京土建常任中執）が要請内容を説明。例年通り、「補助金の現行水準の確保」など3項目という内容ですが、特にコロナの影響を十分考慮してほしいと強調しました。伊藤課長は要請ハガキを紹介しながら、「しっかりと皆さんの想いを受け止め、財政当局に要求していく」と回答しました。

交渉終了後、田村部長は引き続き、ハガキ要請、賛同署名をすすめようと参加者に訴えました。

台東区で現場宣伝

住民とにわか労働相談も

労働者からアンケートをとる

9月29日、東京土建は都心部連携協議会の行動として、台東、文京、港、新宿支部の仲間の協力を得ながら、台東区役所傍のマンション新築工事現場（元請・三井住友建設）で宣伝行動を行ないました。

建設工事従事者ホットラインの案内チラシの入ったティッシュとペットボトルのお茶を配布しながら、賃金、現場のコロナ対策などを聞くズバッとアンケートを行ないました。この日の作業工程がコンクリートの打設にあたり昼休みに入退場する労働者はまばらで、アンケートに答える労働者は少数でしたが、神奈川土建で役員をしているというとび職の労働者は、休憩所は密になっていないなどと現場の状況を答えてくれました。

通りがかった近所に住むという女性が「何の行動ですか」と声をかけてきました。ヘルパーをしているというこの方はコロナ禍で収入が減り困っているということで、にわか労働相談となりCU東京などを紹介するというエピソードがありました。行動に参加したのは19人でした。

倒壊建物をジャッキアップ

品川

建設4組合力合わせ

マチケンの訓練

【品川・大工・藤原延行記】9月27日の日曜日、午前8時に集合し、戸越5丁目防災広場において、マチケン（町の建設救援隊）の「倒壊建物からの救出訓練」を36人の参加者で行ないました。

マチケンは建設4組合（建設ユニオン、南建、東京都建設、東京土建）の組合員で構成されています。当日は、すずしくて訓練に適した天候でした。内容は、倒壊建物をジャッキアップしての人命救助と、瓦をおろして屋根を開口しての人命救助を2回ずつ、合計4回を全参加者、最低1回は訓練に参加するようにしました。

「第38回住宅まつり」は、コロナ禍により中止となりましたが、災害はいつくるかわかりません。救出訓練は継続的に行なうことが必要なので、今回開催しました。1年振りの訓練で、段取りや作業手順等を思い出しながらの参加者も多かったと思います。気付いた点に声をかけあい、次の成長へとつなげていきたいと思います。

全労働者の賃上げを

東京地評が19回大会開催

【本部・中村徹記】9月27日、東京地評第19回定期大会がすみだリバーサイドホールで開催されました。今回はコロナ禍での開催という事で、3密を避けるため、出席人数を通常の半数以下で開催し、残りの代議員は委任状対応としました。出席人数は全体で150人（東京土建は11人）が出席し、委任状は12通（東京土建24通）でした。

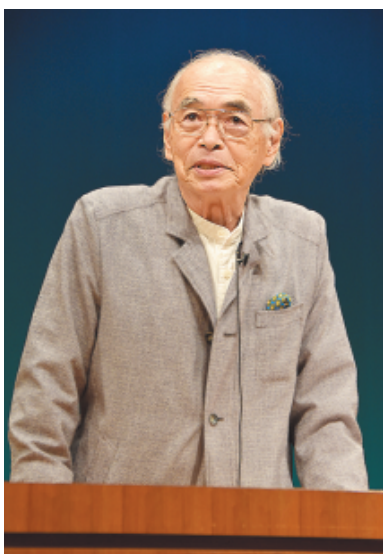
コロナを克服し、すべての労働者の賃上げ、雇用の安定、安心して暮らせる社会の構築、労働者と市民、野党の共闘で憲法を活かす政治、労働者、国民本位の政治に転換することを掲げての大会でした。

また、大会方針を積極的に補強する事前文書発言が10件、会場発言が3件ありました。東京土建は2020年度の組織拡大表彰にて、組織拡大の部（10%以上）で表彰を受けました。

新執行部に荻原淳議長が再任、東京土建から白滝誠副議長（専従）、小番徹副議長（非専従）、井澤智事務局長（専従）、北川誠太郎幹事（非専従）が再任され、最後に声を抑えての団結ガンバローで閉会しました。

いらない横田基地

400人で市民交流集会



講演する小柴さん

10月10日、第11回横田基地もいらない！沖縄とともに声をあげよう市民交流集会が、福生市民会館で開催されました。主催は同実行委員会で400人（東京土建は41人）が参加しました。

初めに、映画「沖縄と本土一緒に闘う」を上映し、監督の湯本雅典さんが、石垣島の自衛隊基地建設の賛否を問うための住民投票条例制定を求める訴訟と、秋田県でのイージスアショア配備計画について講演。軍事強化される日本の状況を明らかにしました。

軍事情報アナリストの小柴康男さんは、「アメリカの戦争と横田基地」と題した講演で、米国議会作成の「アフガニスタン・ペーパーズ」を読み解いて分かった米国の「軍産複合体」の危険な実態と、横田基地が中国を相手として戦争指令基地化され、ますます危険となる状況について解説し、日本が使い捨ての要塞となると批判しました。

最後に、米軍に人口密集地上空での危険な訓練の中止、日本政府に米軍の行動の制限と監視を求めるなどとした抗議決議を集会参加者の拍手で確認しました。

練馬

対話の教訓を共有

全分会からの137人で活会

【練馬・書記・渡辺直樹通信員】10月4日、拡大月間の折り返し地点となる秋の活動者会議を開催しました。全分会から合計137人の参加で、9月前半戦に関する基調報告のほか、拡大につながった経緯や工夫した取り組みを行なった3分会（南田中、旭町光が丘、谷原台）からの経験報告を共有し、8つにわかれた分散会でさらに討議を深めるものとなりました。

分散会で活発に討議

分散会では、組合員総対話を目指すコロナ禍の相談活動を中心に、対話からうまれた新たな教訓の共有や、分会個別の悩みを相談したりするなど普段できない分会間交流をすることができました。今回の総対話運動は目標と評価を明確にしたことで全分会がそれに応えて奮闘する姿が顕著となっており、練馬支部の拡大運動の強固な土台となっていることを確信させられるものとなっています。

全体の討論のまとめでは、コロナ禍の中でも困難を乗り越えながら組織活動を確実に前進させてきたことを確信に拡大運動を最後まで奮闘するための意思統一をはかりました。最後に伊藤副委員長が「残り1カ月の拡大月間をコロナに負けず、全分会の達成を目指そう」と締めました。